

亡日

いんうつな 空の 叫びを きき
ひろい 並木ある道を 歩きながら
つぶやき つぶやき 僕は 洋服の中で ふるへてみた
いつか 雪がふり 雨がふり いろんなものが まざりあひ
異様な 光線が 乱れあひ 僕のからだに ふりかかった
寒さに おびえて 僕は ただ 並木の蔭を ふみつけながら
いろんな でたらめな 祈りをした
だが やがて 洋服の中で ぼろぼろと からだは 次第に くずれ出し
こころで わづかに 自分を支へ さびしく 歩かねばならなかつた
いんうつな 空の 叫びに 答へながら
並木の さわさわと ゆれてゐる 下を よろめき 歩かねばならなかつた